科目コード／科目名 （Course Code / Course Title）	EX655／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 （Theme / Subtitle）	気候危機と民主主義		
担当者名 （Instructor）	尾内　隆之(ONAI TAKAYUKI)		
学期 （Semester）	通年(Full year)	単位 （Credit）	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング （Course Number）	LPX4910	言語 （Language）	日本語 (Japanese)
備考 （Notes）	その他登録		

授業の目標（Course Objectives）

環境・人間・社会の多面的な関わりを踏まえて，環境問題をめぐる政治を分析し，これからの方向性を構想する。

The objectives of this seminar are;
- to analyze the politics of environmental issues in view of the multifaceted relationships between the environment, human beings, and society
- to design a future direction on the basis of our analysis.

授業の内容（Course Contents）

このゼミでは、いまや「気候危機」と呼ばれる地球温暖化問題と、そのゆくえを左右する政治との関係を取り上げる。とりわけ今日の「民主主義」が、この危機にどのように、どこまで向き合っているのか、向き合うことが可能なのか、という点を探求する。その際のキーワードのひとつは Climate Justice（気候正義）である。

日本では危機感があまり感じられないが、「グレタ現象」という言葉で表現されるように、いま世界各地の若者たちが、より抜本的な気候変動対策を求めて声を上げている。その理由には、異常高温や洪水、山火事の頻発といった目に見える事態だけではなく、環境対策をおざなりにしてそのツケを若者に回した大人たちへの怒りがある。さらに気候変動は、生命に欠かせない食糧や水などの資源を脅かし、そうした問題は途上国の貧困層など弱い立場の人々により強く影響するだろう。世代間、地域間のこうした不公正を放置することは、気候変動対策の深刻な欠陥となる可能性がある。

とはいえ、Climate Justice を訴える若者の声は世論を支配するまでには至っていないし、政治は依然として国益や経済セクターの声ばかりを重視しているように見え、民主主義の制度の中で何ができるか模索が続いている。その模索には、イギリスやフランスで行われた、「くじ引き」で集められた市民が徹底的に議論する「気候市民会議」という新しいスタイルの実践も含められる。

つまり、民主政治のバージョンアップをリードしているのも、「気候危機」なのである。こうした問題関心をもとに、つねに最新の情報と世界の動きをキャッチしながら、気候危機と民主主義の関係について議論を重ねたい。日々動きを見せている問題なので、ゼミ参加者には自ら積極的に情報収集し、共有する積極性が求められる。またこのゼミでは、少人数のディカッションと意見発表を重視するので、その点にも留意して応募すること。

This seminar is going to focus on the relationship between “climate crisis” and politics. The main mission is to examine how democracy have coped with the climate change so far, then find the way to tackle with the climate crisis through democratic policy making. One of the most important concepts for that agenda is “climate justice”.

Although most people in Japan seems to neglect that crisis, many young persons all around the world urge their opinions to force their governments to take much more effective measures. Their passion bases not only on the recent frequencies of unusual weather around the world -- heat waves, floods, wildfires and so on --, but on the anger against older generations passing the buck to younger and future generations. Climate crisis should be threatening the imperatives for life like food production and water resources. Those problems must affect much severely to poor people in developing country. Ignoring such unfairness between generations and between regions is possibly going to be great faults on measures for climate change.

But young persons’ voice requiring the climate justice haven’t yet persuade public opinion entirely. Governments seem to put their priority on national and business sector’s interest. So young protesters are looking for a solution to innovate current democracy. The citizens’ assemblies for climate as “the democracy lottery” that took placed in UK and France are also the trials toward the innovation of democracy.

Those cases show us that the sense of crisis is leading the challenge for a version-up of democracy, and those challenges are the amid of research interests in this seminar. We discuss the relationships between climate crisis and democracy, with catching the latest news on the climate change and its politics. Therefore, students are expected to be proactive about acquiring information and knowledges which would be shared at the classes. Please note that small group discussions and presentations are frequently assigned in each classes.

授業計画（Course Schedule）

1. ガイダンス＆アイスブレイク
2. 環境問題を考えるための基礎的考察（ブレインストーミング）

3. 環境問題を考えるための基礎的考察（ブレインストーミング）
4. コロナ危機と気候危機 (1)
（以降、併行してゼミ生によるニュース報告も行う）
5. コロナ危機と気候危機 (2)
6. コロナ危機と気候危機 (3)
7. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (1)
8. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (2)
9. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (3)
10. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (4)
11. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (5)
12. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (6)
13. 気候危機に関する資料・情報共有と討論 (7)
14. 春学期のまとめ
15. グループリサーチのテーマ選定
16. グループワーク (1)
17. 追加テキストの輪読 (1)
18. 追加テキストの輪読 (2)
19. COP27 の動向研究 (1)
20. COP27 の動向研究 (2)
21. グループワーク (2)
22. COP27 に関するまとめと討論
23. グループリサーチの中間報告 (1)
24. グループリサーチの中間報告 (2)
25. 追加テキストの輪読 (3)
26. 追加テキストの輪読 (4)
27. グループリサーチの成果発表①
28. グループリサーチの成果発表②

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

事前の準備課題を毎回課すので，必ず取り組んだ上で出席すること。また課題以外にも，新聞やテレビ，インターネット等で，環境問題や環境政策の動向について積極的に情報収集しながら，演習に臨むこと。

なお、このゼミでは、自然体験を兼ねた夏合宿を恒例行事としてきました。今年度は新型コロナの感染状況に応じてですが、可能な範囲で何らかの行事も実施したいと考えています。ゼミ参加者は、そうした企画にも主体的に取り組んでください。

成績評価方法・基準（Evaluation）

担当報告の内容(30%)/議論への貢献度(40%)/リサーチの最終発表内容(30%)

テキスト（Textbooks）

開講後に随時指示。また必要に応じ、プリントにて配布する。

参考文献（Readings）

1. 堅達京子、NHK 取材班、2021、『脱炭素革命への挑戦：世界の潮流と日本の課題』、山と渓谷社 (ISBN:978-4635310444)
2. 宇佐美誠、2019、『気候正義：地球温暖化に立ち向かう規範理論』、勁草書房 (ISBN:978-4326102723)
3. 平田仁子、2021、『気候変動と政治：気候政策統合の到達点と課題』、成文堂 (ISBN:978-4792334147)

他、開講後に随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

＜HP＞担当教員の情報は http://researchmap.jp/takaonai/ を参照

＜選考方法＞
採用人数：20 名まで
配当年次：２～４年次
選考方法：レポート
①題目：自己紹介と志望理由
②字数：1,600～2,000 字
演習論文：実施しません

講義科目「環境政治」の併行履修、ないし履修済みであることが望ましい

注意事項（Notice）